

福島敏夫随筆集

「乙戸南雑話「花鳥風月及び星・虹を愛でながら」から

主宰論説40

2023年を振り返って(その1)

今年も、喜怒哀楽いろいろなことがありました。怒哀の方が、喜楽より多かったのかもしれませんが、また、恐れや不安の他に、笑いなどもありました。

先ず、悲しみと怒りと不安です。

インターネット技術（ITX）や人工知能（AI）やデジタル化（DX）などの普及に伴い、いろいろな有用な情報は、早く得られ、インフラなどの総合的管理などがし易くなった反面、偽情報やフェイクニュースで惑わされ、サイバー攻撃、偽サイトへの不正誘導や詐欺などが、横行しました。スマートフォン、携帯電話、場合によっては、パソコンでも、通信妨害・障害が、多発するようになりました。いろいろな金銭トラブル、傷害・殺戮事件が、続出しました。海外からのインターネット経由と誘導による、若者の闇バイトへの関与と広域の強盗および傷害・殺人事件への参画の悲しい事件も、多発しました。外では、相変わらず、民族的紛争、宗教的争い、内戦・テロ、強引な対外威圧と世界の覇権をめぐる争い等は、絶えることがなかったように思われます。シリア、アフガニスタン、ミャンマー内戦は、まだまだ続き、収束の兆しが、見えません。ウクライナ国民に大惨禍をもたらすとともに、地球的な規模での資源・エネルギー問題を悪化させ、開発途上国における貧困・飢餓、伝染病の蔓延・拡大など、いろいろな意味で、世界各国に、夢と希望を失わせかねない大きな災禍の源となったロシアのウクライナ侵攻と戦争が、未だ収束の兆しが見えません。また、新たに、イスラエルとパレスチナの武闘集団ハマスととの戦争が、勃発し、解決は、来年以降に持ち越しが予想されます。北朝鮮、中国、ロシアの近隣専制国家による軍事的脅威が増大し、いまだに収まるどころがありません。国家間や国際的緊張の解決に向けて動くはずの国連（UN）は、機能不全に陥って、なかなか争いの解決に向かえないという不安と危惧もあります。内では、胸の痛むいろいろな傷害、刺殺、殺戮事件が多発しました。心ならずも事件に巻き込まれた方々への御見舞を申し上げますとともに、亡くなられた方々への御冥福をお祈りしたいと思います。また、相変わらずの政治的な灰色の霧および不透明問題、過重負担による医療崩壊の危機、看護・保育施設の経営悪化や虐待問題、契約社員やパートおよび一人親所帯の労働環境の悪化、営業対策助成金の不正受給問題、人を救うはずの宗教法人のとんでもない裏の顔の露呈問題、夢の祭典であるはずのオリンピック・パラリンピックに絡む不正金脈・組織的癒着問題の露呈、インターネット空間での通信妨害・障害、偽メールによる不正サイト誘導、サイバー攻撃による情報漏洩および制御機能停止問題、蔓延する振り込め詐欺問題など、悲しく、暗い話も、続出しました。それらに関連し、冬期オリンピックの見送りの事態も続出しました。全国各地で相次いだ広域強盗事件を巡り、フィリピンの入管施設で拘束されていた日本人の男4人が強制送還後に警視庁に逮捕されました。東京五輪・パラリンピックを巡る談合事件で、東京地検特捜部は大会組織委員会の大会運営局元次長や電通元幹部らを独占禁止法違反（不当な取引制限）容疑で逮捕しました。夢のイベントであるはずの大阪万博は、いろいろな準備不足、資材高騰による開催費用のうなぎ登りの高騰問題で、無事開催されるのか、見通しの不透明問題は、未だに残っています。

また、今年も、昭和・平成・令和時代を支えた名人・偉人・面白人たち、これまで親し

く付き合ってもらった恩師、昔の上司、同僚、後輩、同級生や、先人の多くが、長い二度と帰らぬ永遠の旅路に赴きました。世界的にも有名な偉人に近い人等の訃報も続出し、悲しみに、襲われることもありました。日本のノーベル文学賞作家の大江健三郎さんも、88歳で亡くなりました。気候変動などの自然災害に対する有効な対策が、カーボン・ニュートラル、カーボン・リサイクルなど、ようやく出そろいましたが、目安としていた数値目標は、既に超えていて、既に手遅れと考える人も少なくない。筋書き通りに実効性があるのか、いまだ見通しが不透明な問題もあります。生態系への深刻な影響をもたらすとされるマイクロプラスチックが、海洋・陸地・大気中いずれでも検知されるようになったという報告もあり、懸念されます。固体・液体・気体の廃棄物問題、生物多様性の激減、開発途上国での貧困・病気の蔓延など、地球環境問題が、地球における生物全体の存続をも危うくする危険性も指摘されるようになり、改めて、持続可能な開発目標（SDGs）の重要性が認識されました。可能な限り、的確な防災・減災対策とともに、実効性のある対応策を考える英知が必要であると思われました。また、改めて、頂いた命を大切に、天命を全うすることの重要性も、考えさせられました。

他方、今年も、世界各地で、地震、火山の噴火、火事、洪水等の自然災害が続出し、大きな被害に見舞われました。2月6日、トルコ南東部のシリアとの国境付近で発生したトルコ・シリア地震では、数十万の建物が損壊し、トルコ、シリア両国合わせて約6万人が犠牲となる甚大な被害を受けました。ハワイ・マウイ島で8月8日に発生した山火事で、島西部の観光地ラハイナは、2200以上の建物が損壊し、約9平方キロが焼けるなど大きな被害を受けました。9月8日には、3,000～4,000メートル級のアトラス山脈が走るモロッコ中部の内陸部を震源に、マグニチュード6.8の地震が発生した。震源地の山間部や人口100万都市マラケシュなどを中心に、土壁の家屋が多数倒壊しました。12月18日には、中国内陸部の甘粛省でマグニチュード6.2の地震があり、地元メディアは、甘粛省で86人の死亡が確認され、96人がけがをしたと伝えました。12月18日、世界有数の火山国として知られる北欧アイスランドの南西部で発生した火山の噴火活動は、市民生活への影響が長期化することが懸念されています。他方、北米、欧州、アジアなどで、熱波や豪雨の猛威にさらされました。命に危険が及ぶ高温が続き、山火事や記録的な水害も発生しました。世界気象機関（WMO）のターラス事務局長は「地球温暖化の影響で異常気象の頻度は増しており、残念ながら『新たな日常』になりつつある」と警鐘を鳴らすようになりました。9月10日、スペインとギリシャで甚大な被害をもたらした暴風雨は、地中海を通過する際に勢力を強め、リビア沿岸に上陸し、強風と激しい降雨により、地中海沿岸の都市デルナの上流で2つのダムが決壊した。破壊的な洪水が市街地の一部を飲み込み、アパートを破壊し、泥の激流が、眠っていた数千人の住民を押し流した。12月27日タイ南部で豪雨による洪水が発生し、少なくとも6人が死亡、1人が行方不明となっていると伝えられている。日本でも、風・水害、土砂災害、豪雨と土石流、雪害と凍結と停電など、想定外の天変地異の自然災害、人災および複合災害が、多発しました。自然の猛威を知らしめるには、十分でした。史上最高で長い日本の全国的な酷暑は、秋の十分な訪れなく冬に向かい、四季を喪失させた感じがありました。小規模の失火や放火によると思われる胸の痛くなる悲惨な火災も、続出しました。9月8日に東海道沖に接近した台風13号は、勢力がさほど強くなく上陸もしなかつたにもかかわらず、広範囲に雨を降らせて大雨と浸水被害をもたらしました。北茨城地域の浸水被害は、史上最大でした。風の影響はほとんどなく、雨台風だったそうです。これらの自然災害で亡くなられた方々の心からのご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様のお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

ついで、喜びです。

日本が、14年ぶりに、世界野球チャンピオンシップ（WBC）で、世界一を奪還しました。また、38年ぶりに、阪神が、日本プロ野球で日本一になりました。また、アメリカのプロ野球で、日本出身の若手の大谷翔平選手が、今年も二刀流の大活躍をし、アメリカのプロ野球史を書き換え、日本人初のホームラン王にもなり、2度目の最高殊勲選手にも輝きました。若者の新しい挑戦と夢と希望の源になったことも、記憶に新しいところです。野球界は、いろいろな快挙も多く、華々しい年でした。フィギュアスケート、やり投げなど、他のスポーツでも、来年のパリ・オリンピックに向けての記録ラッシュも多かったようです。スポーツも、いろいろな意味で、人々に感動をもたらし、夢と希望につながる力もたいしたものだと、感心させられることも多かったよ

うです。また、囲碁界、将棋界での新鋭たちの最年少記録や多冠の大活躍や、音楽界や芸術界や学界などでの、ベテランの、情熱と技能の衰えないしぶとい活躍とともに、若い人たちの新しい息吹と胎動と創造の動きも、頼もしく感じられました。いろいろな音楽、絵画、陶芸、建築・建造物など、国境、宗教、時代を超えて、人の心の琴線に響く力も、たいしたもので、改めて、感動の源になったようです。囲碁の女流棋聖戦三番勝負で中学生棋士の仲邑菫三段が2勝1敗で女流棋聖を奪取し、13歳11か月のタイトル獲得は史上最年少となりました。また、将棋界では、藤井聡太さんが、史上最年少で、全タイトル独占の八冠王を達成しました。特殊才能に当たるのかもしれないが、たいしたものです。

笑いとおぼのぼのです。

テレビで、笑点など、いろいろなお笑い番組を楽しみました。いろいろなお笑い芸人も、現れ、番組を盛り上げてくれたようです。笑いやおぼのぼのとした感動を誘うドラマなども、多かったようです。これまで陽の当たることのなかった人たちを主人公とするおぼのぼのとしたものもありました。

楽しみと喜びです。

喜びです

新型コロナウイルス禍で、開催を控えていた、地方の郷土芸能、祭り、花火大会、ライブが復活し、生命讃歌を奏でている姿は、ともすれば沈みがちになる気持ちを豊かにさせ、夢と希望の源にもなったようです。美術館、博物館、庭園散策なども、人の心の癒しと安らぎを与えるのに役だったように思われます。

嬉しさです

夢と希望をもたらす話もかなり多かったようです。文化界、スポーツ界でのいろいろな快挙、科学界でのすばらしい発見や創造、工学および実業界での新しいイノベーション（DX、IOT、人工知能、ビッグデータ、ロボット、スーパーコンピュータの新型コロナウイルス感染対策等の社会貢献での活用、量子コンピュータの実用化の動き、科学技術と芸術の融合、無人飛行機ドローンの平和目的の利用の進展、可視化の高度化など）、皇室・皇族のおぼのぼのした話題など、今後に向けての明るい話題もありました。人と生物と自然との共存・共栄と宇宙船地球号の大切さ、世界遺産の保存と存続と世代的継承、地域・地方社会の再生と活性化に向けての着実な動きなど、情熱と努力と継続を感じさせる話も結構多かったと思います。

ただ、頭に留め、忘れてはいけない話もありました。

年の瀬が迫ってから、打って変わって、大寒波と雪害に見舞われました。北海道、東北、北陸、山陰地方の日本海側だけでなく、全国的に、大寒波と大雪の雪害に見舞われました。アメリカ、カナダの北米、イギリス等での大寒波と雪害も、厳しいものがありました。雪は、スキー場にとっては、営業上不可欠ですし、貴重な水資源にもなりますが、生活の支障とインフラ破壊も連なります。尊い命を守るために、防寒対策とともに、防災・減災対策は、忘れないようにしてもらいたいものです。被災された皆様のお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。忘れていたかも知れませんが、いろいろな建造物や文化遺産の老朽化とその対策について、考えさせられることも、多かったようです。材料・部材等の劣化は、必要な性能・機能の経時変化として、社会的インフラや建造物の損傷やその資産価値の低下や不測の事故とともに、世界遺産の存続にも影響を与え、寿命を早めることもわかってきました。また、自然災害や人災および複合災害の際の危険度を高めることにもなります。気候・風土の影響もありますが、地球環境の変化も、複合災害の増大にも連なることもあるようです。長期的な実効的な対応策とともに、短期的・中期的には、的確な防災・減災対策を考えることが重要だと考えられました。軍艦島その他の世界遺産となっているいろいろな建造物も、正しい劣化と寿命の知識に基づ

いて、維持・保全、修復、再生を行い、必要あれば、解体・廃棄をするという判断が必要になることもあるようです。寿命にも、いろいろあるようです。手前みそのようで申し訳ありませんが、劣化現象がどのように起こるのか、メカニズムの研究例は、多いけれども、それをわかり易く“見える”ようにする（「可視化」）とともに、寿命に結び付けるという、私がこれまで興味を持って継続的にやってきた話も、重要であることが、再認識させられました。

令和5年12月24日 福島敏夫